

# 「北海道水素地域づくりプラットフォーム」の活動について

## ● 活動計画（「北海道水素地域づくりプラットフォーム」の設立について、平成27年度第1回プラットフォーム会合 配布資料1より抜粋）

- 平成27年度～平成31年度の5年間程度の活動を予定している。
- 年に2～3回程度、会合を行って参加者の間でテーマに関する意見交換、議論を行う。
- 参加者間で協力し、道内の水素関連事業の促進に資する活動を行う。
- 年に1回、札幌にて一般向け講演会を行い、道内に向けて水素を活用した地域づくりに関する情報発信を行う。
- その他、先進地域の視察等も検討している。

## ● 平成27年度 活動報告

- 5/25(月) 第1回会合(於:札幌市) <参加29名(23団体)、傍聴115名、計144名>
    - ・基調講演、講演、視察報告(別紙1参照)
  - 1/29(金) 第2回会合(於:札幌市)
    - ・平成27年度活動報告及び平成28年度活動予定
    - ・情報提供及び意見交換、海外視察報告
    - ・パネルディスカッション、基調講演、講演、現地視察報告
  - 上記会合の他、5/12(火)～13(水)福岡県視察(佐伯座長、近久座長代理、国土交通省、11/22(日)～26(木)ドイツ視察(近久座長代理、国土交通省)(資料2参照)を実施。
- ※ 10/8(木)稚内市で開催予定の会合(パネルディスカッション)については、荒天のため中止。

## ● 平成28年度 活動予定(案)

### ➤ 会 合

- ・3回程度実施(5~6月頃、9~11月頃、1~2月頃)
- ・札幌開催2回、地方開催1回程度を想定
- ・意見交換、情報交換、下記の現地視察の報告、地方公共団体及び民間企業による先進的取組の支援(補助制度の紹介等) 等

### ➤ 現地視察

- ・地方開催時に現地視察を想定(現地までの旅費は各会員負担)
  - ※ 視察場所については、各地域の実証実験等の進捗などを踏まえて今後調整予定
- ・関東地方において現地視察を想定(現地までの旅費は各会員負担)
  - ※ 視察先・実施時期については今後調整予定

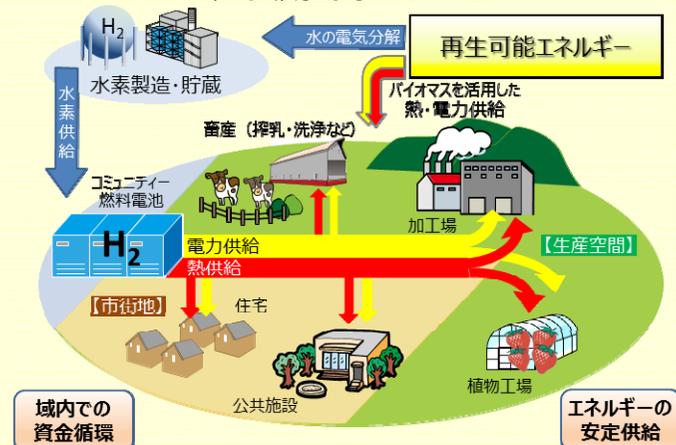
### (参考)

「再生可能エネルギーを活用した地域づくりに関する調査」  
(北海道開発計画推進等経費)

- 再生可能エネルギーの地産地消におけるエネルギーバランス・コスト試算や消費地への移送等に関するコスト試算等を実施し、地域づくりや再エネ活用方策を検討する。

※ 本調査は、本プラットフォームと連携しつつ実施する予定  
(各会合において進捗報告及び必要に応じて意見交換を予定)

再エネを活用した地域づくり(農村モデル)の中・長期的なイメージ



出典：「平成28年度北海道局関係予算概要」、H28.1

# 「北海道水素地域づくりプラットフォーム 平成27年度第1回会合」実施概要



日時：平成27年5月25日(月) 15:30～17:15  
 場所：札幌第一合同庁舎2階講堂（札幌市北区北8条西2丁目）  
 人数：参加29名(23団体)、傍聴115名 計144名  
 （報道機関：NHK、北海道新聞、日本経済新聞、北海道建設新聞など 9社）

## 座長挨拶：北海道大学名誉教授(前北海道大学総長) 佐伯 浩 氏

- ・地球温暖化の対策には、できるだけ早く温室効果ガス排出を削減する必要がある。
- ・安全性、コストに関して、社会が水素を容認できるような技術開発が必要である。
- ・本プラットフォームを、知識を高め、水素を活用する社会の実現に向けた知見を得る場にしたい。



## 設立目的及び活動方針などの説明(北海道局)

- ・北海道に豊富に賦存する再生可能エネルギーの活用を水素を利用することにより促進させ、水素を活用した地域づくりを検討するとともに、水素の製造・利用に係る事業の振興を通じて地域に貢献。
- ・東京オリンピック・パラリンピックに向けた水素活用技術の進展を見据え、平成31年までの5年間の活動を予定。

## 基調講演：「北海道における再生可能エネルギーと水素のさらなる活用の可能性」 北海道大学大学院 工学研究院教授 近久 武美 氏

- ・自然エネルギーの割合を50%程度まで増加させても、一定の仮定の下ではコストはそれほど高いものではない。
- ・現在の仕組で儲かっている産業が、新しい水素のビジネスに移行できるバランスの取れた進め方が行政に必要。



## 講演：「風力電力を活用したグリーン水素製造事業等について」

豊田通商(株) 羽田 裕 氏

- ・風力を活用したグリーン水素製造のNEDO技術実証プロジェクトを苫前町において実施しており、本プラットフォームとも連携する機会が出てくると思う。
- ・当社が本プロジェクトに参加しているモチベーションは、北海道がグリーン水素の一大生産地になり得るという想いであり、まず地産地消による地域経済の活性化を実現し、将来は余剰分を道外へ販売していくことも視野に入れていきたい。



## 講演：「再生可能エネルギーを活用した東芝の水素社会実現に向けた取組」 (株)東芝 大田 裕之 氏

- ・水素を用いた自立型エネルギー供給システムを用いたBCPシステム(7日間、300人分の電気、湯を供給)が、川崎市において稼働中。
- ・北海道においても、同システムを用いて地域強靱化、エコリゾート開発や水素ステーション設置などの可能性。



## 視察報告:「九州における水素の取組みについて」(北海道開発局)

- ・福岡県を司令塔、九州大学をシンクタンクとする水素エネルギー分野における我が国最大の産学官連携組織「福岡水素エネルギー戦略会議」が展開する「福岡水素戦略～Hy-Lifeプロジェクト」の取組を紹介。

## 意見交換

- ・日照時間が長い十勝の太陽光発電の利用や鹿追の家畜ふん尿からの水素など、クリーンな十勝をつくっていききたい。(池田町)
- ・3月に温暖化対策推進計画を策定し、2050年まで温室効果ガス80%削減が目標。来たる水素社会に向けた調査検討を進め、札幌型スマートライフスタイルの定着。(札幌市)
- ・地球温暖化対策の旭川版を今年度中に策定する予定。旭川の地域特性を活かした再エネ利用を目指す。水素は産業、雇用、などまちづくりに有用。(旭川市)
- ・低炭素都市を目指した「グリーンエネルギータウン構想」を2月に策定。来年3月に移動式水素ステーションの設置やFCVの導入を予定しており、北海道における普及啓発に活用する考え。(室蘭市)
- ・風力発電は現在の76MWを2年後に106MWに、2019年には550MW級に。発電基地を目指して水素製造等の役に立てるよう進めていきたい。(稚内市)
- ・メガソーラーや木質バイオマス発電所など再エネ誘致に積極的に取り組んでいる。貯蔵・輸送の拠点として高いポテンシャルがあり、水素サプライチェーンの構築に寄与。(苫小牧市)
- ・自治体、市民、民間企業の参画による北海道型のビジネスモデルを考える必要がある。(北海道局)
- ・苫東地域には様々なエネルギー供給源、及び需要となる産業があり、実証実験のステージなどで貢献したい。(株苫東)
- ・風力発電設備の製造や金属と水素の関係の研究実績などを有しており、プラットフォームに貢献したい。(株日本製鋼所)

